

二級水系 唐人川河川整備基本方針

平成13年 1月

熊 本 県

二級水系唐人川河川整備基本方針

目 次

第1章 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
第1節 唐人川流域の概要	1
第2節 河川整備の基本方針	2
第1項 河川の洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	2
第2項 河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全に関する事項	2
第3項 河川の維持管理に関する事項	2
第2章 河川の整備の基本となるべき事項	3
第1節 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	3
第2節 主要な地点における計画高水流量に関する事項	3
第3節 主要な地点における計画高水位、計画横断形に係る川幅に関する事項	3
第4節 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 (流域参考図)	4 5

第1章. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

第1節 唐人川流域の概要

唐人川は、その源を熊本県玉名郡天水町と熊本市の境に位置する三ノ岳に発し、天水町、横島町の水田地帯を流下し有明海に注ぐ、幹川流路延長約 11km、流域面積約 16km² の二級河川である。

気候は温暖であり、年平均気温は約 16℃である。流域の年平均降水量は約 1,600mm であり、降雨は梅雨期、台風期に集中し、この時期の豪雨により災害が多く発生している。

本地域の地質は、山地部が主に安山岩類で構成され、平地部は河川によって運搬された土砂や砂礫からなっている。

唐人川は、約 400 年前加藤清正の時代に掘替えられた現在の菊池川の旧河道であり、その後の数次にわたる干拓事業を経て現在の姿となったと云われている。

当時の河口部にあたる石塘の構築は、人柱を立てたというほどの難工事とされ、周辺には石塘遺跡、人柱の碑等が残っている。

唐人川の上中流部は三方を丘陵地に囲まれた水田地帯を蛇行しながら緩やかに流れ、川幅も変化に富み、良好な田園景観を呈している。山裾には唐人川の主な水源となる湧水池があり、周辺は散策やヘラブナ釣り等、地域住民の憩いの場として親しまれている。また、河川水は約 490ha の水田等に灌漑用水として利用されている。

防潮樋門のある石塘橋より下流部は 1600 年代以降に築造された広大な干拓農地のなかを緩やかに流れて有明海に注いでいる。この区間は感潮域となっており植生に乏しいが、干潮時には干潟を形成し、特に河口部は遠浅で知られる有明海特有の景観をなしている。

唐人川の動植物について、石塘橋より上流では潮の影響がなく流速も小さいためオイカワ、ギンブナ等のほか、保全上重要なセボシタビラ、カゼトゲタナゴ等が、また、感潮区間となる下流部ではボラ、シマハゼ等の魚類が生息している。植生は平地部の河川沿いにヨシやマコモ等の群落が広がり、山地部には地域の主要な農産物であるミカンの他、スギ、ヒノキの人工林が生育している。

水質について、本水系では環境基準の類型指定はされていないが、潮の影響を受けない石塘橋より上流においては BOD 約 2mg/l 程度で安定しており良好である。

唐人川の河口から石塘橋までの区間は、干拓時に築造された堤防を一部補強し、治水対策は概ね完了しているが、石塘橋より上流域は地盤高が低く、河道の断面も小さく無堤の状態であるため浸水被害が頻発している。特に昭和 57 年 7 月の豪雨をはじめ、平成 3 年、平成 5 年には多数の家屋が浸水するなど大きな被害が発生しているため、この区間については平成 11 年度から事業着手している。

高潮対策としては、干拓事業に伴う海岸防護施設として河口部に防潮水門が設置されている。

第2節 河川整備の基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川の現状並びに河川環境の保全を考慮し、地域の発展に係る諸計画との調整を図り、「治水」、「利水」、「環境」との調和をとって、水源から河口まで一貫した計画のもとに整備を図っていくものとする。

第1項 河川の洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

治川地域を洪水から防御する目的で河川改修を実施し治水安全度の向上を図る。

唐人川流域の社会・経済的な重要度と県内の他河川との計画規模のバランス、戦後最大洪水を発生させた昭和57年7月の豪雨等を踏まえ、概ね30年に1回発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。

また、計画規模を超過する洪水氾濫を含め、被害の発生が予想される場合は、迅速な情報の伝達を図る。

第2項 河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全に関する事項

唐人川の河水は湧水池から流入する清水が貴重な水源となっており、灌漑用水として一旦使用された水が反復利用されている。また、ヨシやマコモ等、河岸の豊かな植生は、セボシタビラ等の良好な生息・生育環境を形成している。

これらのことを踏まえ、河川整備の実施にあたっては、流水の正常な機能を維持しつつ、河川水の適正な利用が行われるよう努めるとともに、生態系や景観など河川環境に配慮しながら、人と河川とのふれあいの場として整備を図る。

第3項 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理は、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全と整備の観点から行うものとする。

河川本来の機能及び整備によって向上された機能を存続し、その効用を十分に発揮させ、また、湧水の恵みを受けた清流から有明海に至るまでの、本地域特有の多様で豊かな自然を将来へ引き継ぐため、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供し、河川愛護への意識高揚を図るとともに、住民参加による河川の維持管理を推進する。

第2章. 河川の整備の基本となるべき事項

第1節 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

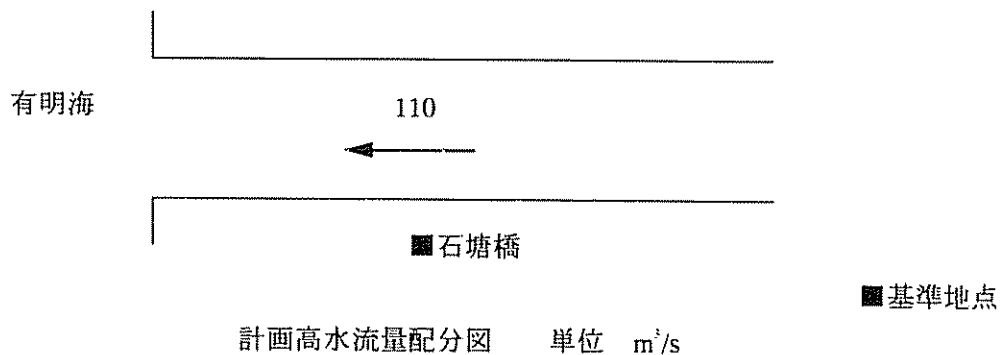
基本高水のピーク流量は、戦後最大洪水である昭和57年7月等の豪雨を踏まえ、概ね30年に1回発生する規模の洪水に対処するために、基準地点石塘橋において $110\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道により処理する。

基本高水のピーク流量等の一覧表 (単位 m^3/s)

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
唐人川	石塘橋	110	—	110

第2節 主要な地点における計画高水流量に関する事項

唐人川における計画高水流量は、基準地点石塘橋において $110\text{m}^3/\text{s}$ とする。



第3節 主要な地点における計画高水位、計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び河道の計画横断形に係る概ねの川幅は、次のとおりとする。

表一 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅

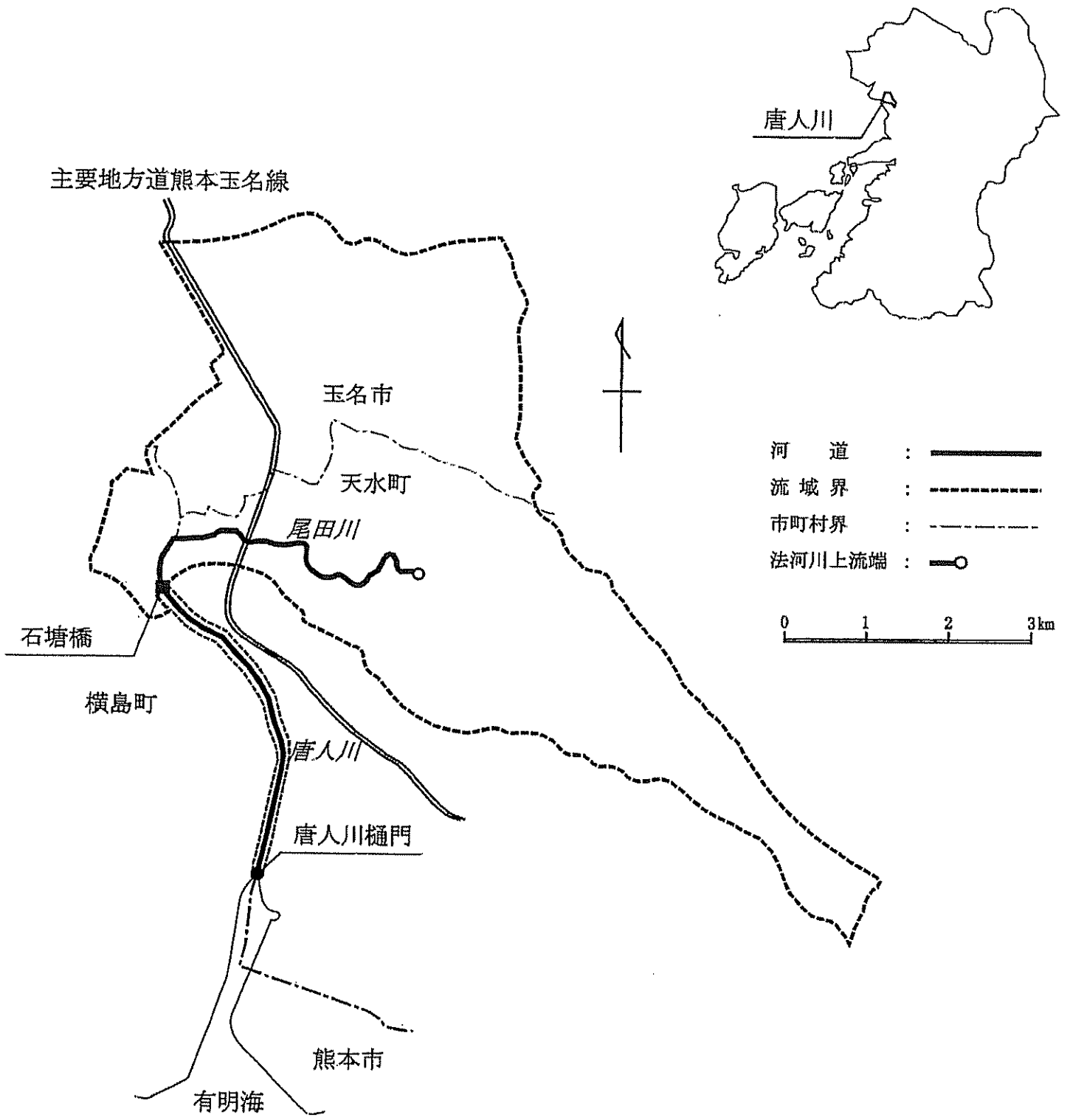
河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 I.P.(m)	川幅(m)	摘要
唐人川	石塘橋	3.0	2.95	52	基準地点

注) I.P: 東京湾中等潮位

第4節 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

唐人川における既得水利としては、支川尾田川に灌漑用水としての慣行水利がある。河川の流量は、尾田の丸池からの湧水量によるが、その量については、今後継続観測により、把握に努めるものとする。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、流水の清潔の保持、動植物の保護等を考慮して、今後調査検討し決定するものとする。



唐人川流域参考図 (■:基準地点)